

SORA

web magazine 2017.mar. vol.82

Lembah Indonesia

Travel

MAP
CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii



スラウェシ島とレンベ島に挟まれた南北に続くレンベ海峡。南北約16キロと狭い範囲にマクロの人気者が大集合している。世界中からやってくるダイバーのお目当ては、まず、ヘアリーフロッグフィッシュ、ワンダーオクトパス、ミミックオクトパス、ハナイカ、バンガイカーディナルフィッシュ、ビッグミーシーホース、ニシキテグリなどなど。1回の滞在で、アイドル種はほとんど網羅(笑)! また、地形的に風の影響を受けにくい為、1年中潜れる海であることも特典! もう随分と人気を継続しているけど、みんなやっぱり、レンベの海が好き! ダイバーのためのカサワリレンベリゾートに滞在して、この素晴らしい海を満喫して欲しい。

やっぱり、レンベの海が好き

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2017
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.





今回は、ジャカルタ経由でレンベ入り！

今回は羽田発のジャカルタ経由でメナド入りをした。飛行機はガルーダインドネシア航空。これまでは、シンガポール航空の経由便がほとんどだったが、ジャカルタに1泊、そして翌朝5時台の国内線でメナド入り、空港から送迎車で約1時間半。車中で2回水中カメラをセットアップして、11時にリゾートに着いた。

少しスケジュールを早めて、レンベの1本目は14時から行った。ポイントは現在、ココティノスレンベがソフトオープンしている、前のマカウィーデーIIIへ。ブイのある浅瀬からエントリー。眼下には、サンゴ礁が広がる。少し沖合の傾斜に行き、ここでガイドのハニーとデッドモンがえらく丹念に海底をチェックしている。少しほっとかれている感じだったので、自分で被写体探し。足下には、たくさんのペラが群れている。よく見るとフラッシャーの群れで、時折、背びれを広げてフラッシングしてる。まずは接近してゲット！そして、少し移動すると、レンベを一躍有名にしたバンガイカーディナルフィッシュが群れていた。よく見るとカクレクマノミの親子と一緒にイソギンチャクに住んでいる模様。レンベでしか見られないコラボを撮影。ガイドのハニーが、何か諦めたように私の所に来て、ハゼやエビカニの紹介を始めた。そして、カイメンに顔を突っ込んだまま出て来ないハリセンボンの子供も。約90分のダイビングを終え、浮上して、「何を探していたの？」と聞くと、「マリベコレマリというウミウシがここにいたんだけど、見つからなかった…」と。実は今回、私はガイド陣にウミウシが見たい！と事前にリクエストしていた。さて、計3日間のダイビングでどんなウミウシに会えるのだろうか！？

2本目はエアロプランⅡへ

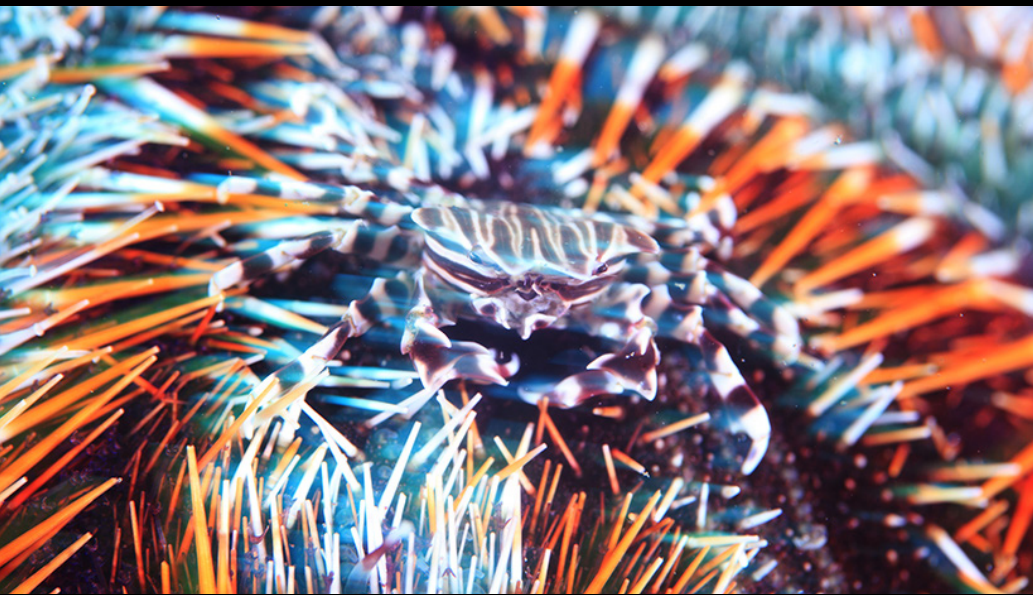
夕方5時にエントリーしたので、まずは明るい海底でのダイブ。さすがレンベの真骨頂のマックダイブ。ハナイカのペアや、ココナッツオクトパス、ダンゴイカなどがどんだん見つかる。6時を越え、水中が暗くなり、ガイドのハニーが急いで来て!と合図した。彼の指示棒の先には、2匹のジョーフィッシュが大きな口を開けて喧嘩をしていた。どうやら縄張り争いのよう。10分程観察撮影していると、2匹ともいきなり砂の中に隠れてしまった。奪い合っていた巣穴が埋もれていた…。明るい時間から、ナイトまでしっかり潜った。今晚はよく眠れそうだ。

翌日(2日目)の1本目マカウィーデーⅡへ。半島側から少し沖にある小島の周辺で潜る。浅瀬はサンゴが広がり、緩やかな砂地に続いている。まずは、ウデナガカクレダコを見つけてくれる。トゲのような姿体になり、擬態上手。穴の中に逃げ込んだ。その後、ウミウシやピグミーシーホース、ピンクスクワットロブスターなどを見せてもらう。10年程前に来た頃は、夢中になって撮影したラインナップ。今も会えるのは嬉しいけど、以前ほどの情熱はない…(笑)。このポイントの海底はかなりカラフルで、ウミシダ、ホヤ、ソフトコーラルも多い。だからそれを上手く利用して撮影した。以前は、砂地に生き物という印象が強かったレンベだが、このようなカラフルな環境があることに、今になって気付いた。



Lembah
Travel Indonesia
レンベ・インドネシア





レンベのマックダイブは やっぱり最高!

Lembah
Travel Indonesia
レンベ・インドネシア

朝食を食べて、少し予定を早めて、10時に2本目のダイビングへ。ポイントは、リゾートから少し北に向かったTK3。ちょっとしたサイズの湾の奥に、漁民の村がある。その前に生け簀などが海面に浮いているが、その周囲からエントリーする。海底には、村人が捨てたのか？ または海流によって流れたきたのか、ゴミが点在する。しかし、それはレンベのポイントでは、全般に言えること。水深を少し下げながら行くと、ニシキフウライウオ、センネンダイ、ハゼの仲間、ウミウシカクレエビを乗せたニシキウミウシ。そしてヘアーフロッグフィッシュをハニーが見つつけてくれた。教えてもらえばかりでなく自分の視点でも撮影しようと頑張っていると、アサヒガニを片手に持ってハニーが「何をしているの?」とこちらを伺っていた。もうガイドさんに任すしかない…。レンベのアイドル種も続々と登場。少し生き物の数が減ったかな?と思っていたが、さすがのレンベ。マックダイブはやはり面白い!

3本目も少し早めのスタートで、1時15分集合。ポイントは、アウサック。ダイビングセンターにあるポイントマップでは、最北端のポイントから2つ目。「ポートでどのくらい?」と聞くと、「5分です」とのこと。どのポイントもとても近いので船酔いの心配もない。ここは、砂地とリーフがミックスしたポイント。ガイドさんの廻り方としては、リーフが中心だった。なので、砂地の生き物を見ていくよりも、サンゴに群れるバンガイカーディナルフィッシュや、カクレクマノミやスパインチークアネモネフィッシュの親子やアカメハゼといった生き物がメイン。レンベらしいというよりは、インドネシアの一般的な魚種を見て行く感じ。そのようなスタイルのポイントであっても、ガイドのハニーがシロガヤなどに隠れるカクレエビなどをたくさん見せてくれた。ひとつ後悔したこと。紫色のきれいなイソギンチャクに住んでいたカクレクマノミの親子の母親がしきりに、私に向かって口を開けていた。不思議な子だな?と思っていたら、ポートに上がってきて、ハニーが、「あのクマノミの口の中の寄生虫を見た?」と…。しっかりブリーフィングを聞いておくべきだった…(残念)。





Lembah
Travel Indonesia
レンベ・インドネシア

リゾート前の極上ポイント！

4本目は、ジャヒール。カサワリゾートの目の前のポイント。所謂、ハウスリーフ的な場所。ボートで少し沖に約1分。ここもマックダイブで、黒っぽい砂地が広がっている。まずは、ハリセンボンがお休みしているので、眺めていると何やら顔のあたりで動くものが、「ウミウシだ!」と撮影、撮影。面白いコンビネーション。そして、背びれの高いハオコゼや絶対に私は見つかっていないと微動だにしないカエルアンコウを撮影。そして、次に出会ったのが、おかしい針を立てたハリセンボン。見方によっては、トナカイのようで、かなり可愛い…。一所懸命に正面顔を撮影して、ウニに寄生するエビを撮影していると鈴の音が。かなり離れたところで、デットモンがライトを振っている。「何、何?」と接近すると何やら、砂地から瓶のようなものが突き出ている。





それは、シースネークに擬態した ワンダーオクトパスだった！

ワンダーオクトパスもミミックオクトパスと同じで、様々な形になり擬態する。その後、何に変化したかわからないけど、形や色を変えて、海底を歩き始めた。それにしても不思議なタコだ。腕の部分にフリルのようなものがあり、色をの濃淡を変えては、まるで言葉のような信号を送る。ほどほどのサイズで、華奢だけど存在感がハンパないワンダーオクトパス。この稀種との突然の出会いに私は大興奮！ 少し暗くなった海底にいることに気がつき、水深計を見る。なんと8mだった。もう6時前で海中も暮れ時を迎えようとしていた。

3日目の1本目は、マカウィーデーⅢ。ガイドのハニーがどうしてもあのウミウシを見つけたい！というリクエストから、再度ここに潜ることに。滞在が3日間だけなので、少しでも違うポイントに潜りたいけど、ガイドさんの情熱に押されて…。ハニーは約90分間、鍵井に見せたいウミウシ・マリベコレマリ探し。私は昨日、ワンダーオクトパスを見つけてくれたデットモンと一緒に潜る。水深を落としながら、マックダイブ。デットモンが、上手く擬態するエビカニの仲間を見せてくれる。途中、大きなトウアカクマノミのコロニーを発見。細々と色んな生き物を撮影し、ハニーの元へ。彼の鈴は1度も鳴らなかった…。またいつか見せてもらおう。最後にボートに戻る前に大きなサンゴの上にハタンボが群れていた。マクロばかりに気をとられていたが、こんな景色もあるのだと改めて思いながら撮影した。



ありがとう! たくさんのウミウシを!



Lembbeh
Travel Indonesia
レンベ・インドネシア

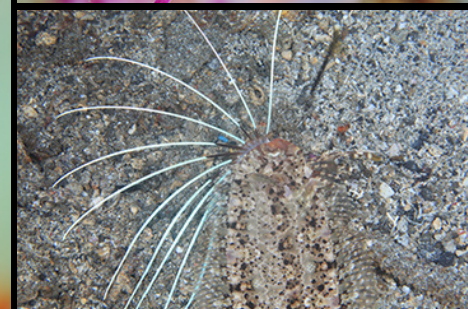
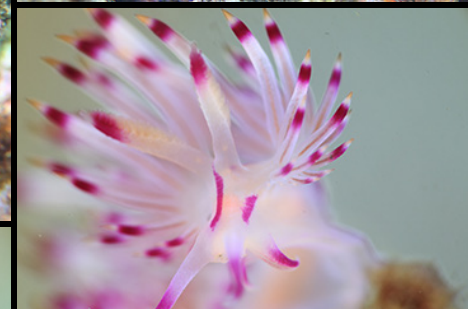
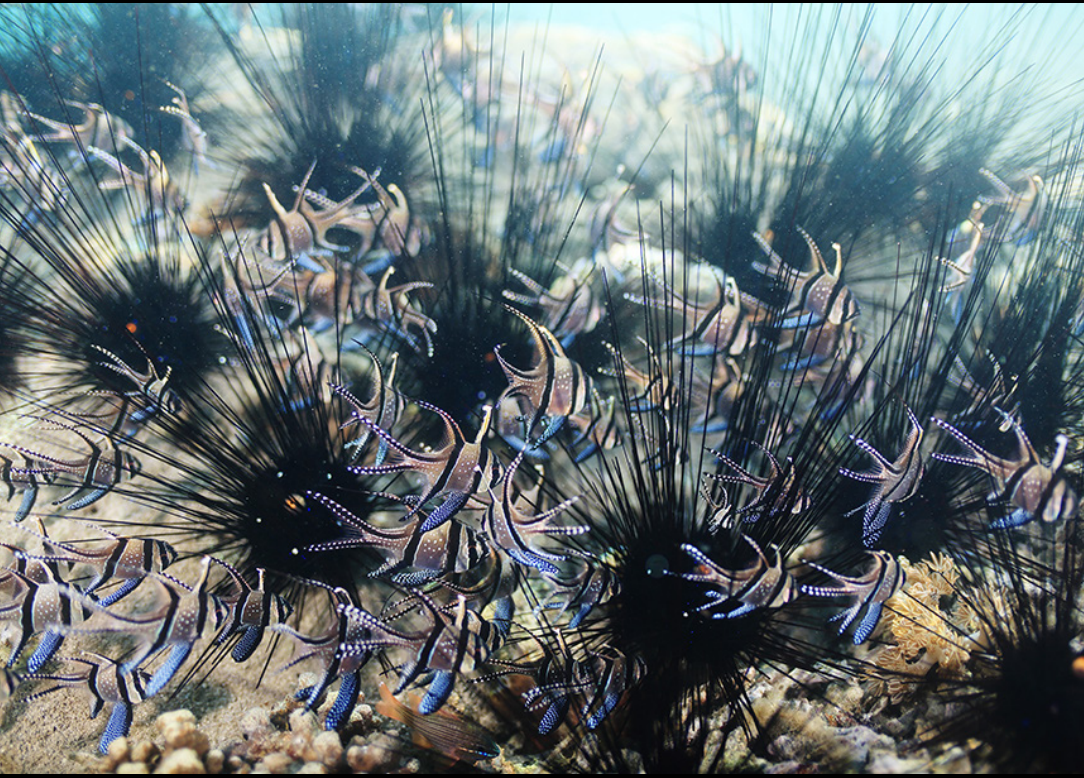
2本目は、ヌーディーリトリートIへ。ここは以前からよく潜っていたポイントで、名前だけは覚えていた。エントリーして気がついたのは、全然水中景観は忘れていたこと。でも、壁沿いに降りて行くと水深10mくらいからウォールになっていて、そこに様々な生き物を見つけることができる。今回は、ガイドのルーシーがたくさんウミウシを見つけてくれた。まずは手始めにwhite mantle glossodorisを見せてもらい、その次は、Hairy norse god。極小サイズだが、デザインがとても美しいサイケなウミウシ。そして、最後は、アカテンイロウミウシ。この可愛いくてデザインの脈やかなウミウシに張り付いて撮影、撮影。レンベのガイドさんは、水中撮影のことをよく理解していて、撮影が納得が行くまで放置してくれる。そして、顔を上げて、ガイドさんを探すと、次の被写体を用意して待っていてくれる。ありがたい。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



どうして? ここが一番最後なの?

ハニーが、「最後ですから、一番いいポイントの行きましょう!」って案内してもらったポイント。名前は、BIANCO POINT。昔から有名なボリスピアというポイントの並びにあり、まだ新しいポイントで、マップにも名前が記載されていなかった。海中の様子は、「これぞ、レンベ!」という感じ。エントリーしてすぐに、カエルアンコウ、そして、大きいニシキテグリとご対面。カエルアンコウは、ここにも、あそこにもと言う感じで見つかり、ニシキテグリに関しては、お昼なのに堂々とサンゴの上を歩いている。エントリーして約5分で、少し満足感ありに。そして水深8mくらいにいくと、ハタタテガレイを発見。少し驚かすと、頭部から白い線を複数出す。この時点で12分。そして、同じ水深のまま様々なウミウシを見つけてもらう。砂地とがれ場を眺めると所々にオレンジ色のカイメンがあり、それにカエルアンコウが擬態している。以前、よく通った頃のレンベのポイントが残っていた。嬉しさを噛み締めて、最終ダイブを終えた。



Lembah
Travel Indonesia
レンベ・インドネシア



お世話になったダイビングセンター

リゾートの海岸線は、プールとダイビングセンターで、特に特徴的なのは、ダイビングセンターがとても広いということ。ウェットスーツに着替える場所には、器材、カメラ用の大きな水槽もあり、ダイビングが大好きなオーナーの心遣いが感じられる。リゾート中央の専用桟橋からダイビングボートが出るのだが、そこまでのカメラの運搬などは全てスタッフが行ってくれるので楽チン。現在、ダイビングセンター6名のダイブガイドとキャプテン4名が在籍。最大ゲスト4名で1ガイドのグループ分けとなるが、カメラ派ダイバーの場合は、状況によりもう少し少人数制にすることも多い。

日本語を話すダイブマスターのハニーとマキシがいるので、日本人ガイドがいなくても安心。今、ゲストで

一番多いのは、日本人、そしてタイ人、ヨーロッパ、アメリカ、香港のダイバーと続く。日本人ダイバーからの人気の高さが伺える。午前中2ダイブ、午後1ダイブ、リクエストベースで、サンセットまたはナイトダイブを行う。1ダイブは約60分。ナイトロックス完備。

ダイビングボートは3隻所有。ボートの上には、ダイブ後の温かいタオルやドライタオル、水、フルーツの用意がある。午後のサンセットやナイトダイブ後に出るホットチョコレートが嬉しい。また、ダイビングセンターの隣にあるカメラルームもまた広い。24時間セキュリティで、夜10時に閉めて、朝6時のオープン。エアガンや各種コンセントがある。

ダイバーのためにある素敵なカサワリレンベリゾート

レンベエリアのローカルな村に静かに佇む2006年8月にオープンした全10室の隠れ家リゾート。海岸線に面した程よいサイズの敷地内は、南国の緑に溢れる。中庭を中心に、1棟独立型のコテージが並ぶ。ヴィラは8室で、ダブルベッドルーム2部屋、ツインベッドルーム6部屋で、最大収容人数が3名。海に面したスイートのカサワリヴィラは、ダブルベッドルーム2部屋。こちらも最大収容人数は3名。天井の高いアジアンモダンな客室で、広いパウダールームは開放感満点。プライベートの屋外シャワーもある。NHK worldも映るテレビや冷蔵庫、エアコン、無料wi-fi完備。日本人スタッフはいないが、レセプションには日本語を話すローカルスタッフのメアさんがいる。



メインの建物の2階に、オーシャンビューのレストラン&バーがある。基本的にはビュッフェだが、ゲストの人数次第ではアラカルトメニューに。インドネシア料理を中心に、洋食、アジアスタイル、ベジタリアンなど美味しいメニューが並ぶ。アラカルトメニューの朝食は、季節のフルーツの盛り合わせ、シリアル、卵料理、フレンチトースト、インドネシア風鶏肉のお粥、ミゴレン、ナシゴレンなど。前菜はアボカドサラダ、トムヤム、スプリングロール、サテ、テンプル、ガドガド(インドネシア風サラダなど。メインは、ビーフステーキ、ビーフバーガー、カルボナーラ、ボロネーゼ、魚と香草をバナナの葉で包んで焼いた料理のイカン ペペス。豚肉と香草を竹に詰めて焼いた料理、パピ ダラム プル。タイ風グリーンカレー、パッタイなどがある。デザートはフルーツの衣揚げ、アイスクリーム、ワッフル、チョコレートムースなどを堪能できる。夕方には美味しいスイーツが用意されている。これも嬉しい!



Lembah
Travel Indonesia
レンベ・インドネシア